

発行者／青森県中小企業家同友会 〒030-0931 青森市平新田字森越 12-28-2F
TEL/017(752)0171 FAX/017(752)0170 URL/http://aomori.doyu.jp/ E-mail/info@aomori.doyu.jp

2025共同求人・社員教育活動全国交流会

in 北海道

in

北海道

＜2025/6/17-18 青森同友会参加5名＞

＊ ＊ ＊ 参加感想文 ＊ ＊ ＊

▶プロジェクトおおわに事業協同組合 常務理事 渋谷敏志 氏

今回初めて札幌に行き、初めて共同求人・社員教育活動全国交流会に参加させていただきました。

1日目は開催地の北海道同友会で実行委員長を務めた(株)レイジックス代表取締役の敬禮匡氏が報告する第4分科会に参加しました。テーマは「若者に届くわかりやすい共育で働きがいの社風づくりへ」。数々のしくじりによって会社が崩壊危機の中、若手女性社員の言葉で目が覚め、本気で社員とその家族のために、真っ当な経営者になることを決意。そこから「人を生かす経営」が企業存続の鍵と気づき、社員と共に新たな社風づくりの挑戦や社員が成長する仕組みづくり等、労働環境の改善に取り組んだ結果、今では社員全員で10年ビジョンをつくるまでに成長。分科会の終盤では社員（部長と店長）からの補足説明があり、本当に社員が誇りを持ち働きがいがある企業なのだと感動しました。

魅力ある企業づくりは社員と共に焦らず少しずつ同友会での学びを実践し、社員を絶対を守る覚悟をもって信頼関係をつくる事が重要だと改めて学びました。

2日目はパネルディスカッション形式で「社員教育と共同求人の50年を検証しよう」をテーマに、中同協共同求人委員会・社員教育委員会の各委員長から全国の活動についての課題と今後の展望が報告されました。

「労使見解」をしっかりと理解して同友会活動と企業経営を行うことで、社員尊重経営に繋がり、若者が地域で働きたいと思える企業に成長し、地域づくりにも貢献で

できることに気づかされました。

本交流会では設営についても参考になるところがあり、10月開催の障全交 in 青森でのおもてなし等の設営にも活用したいと思いました。最後に、懇親会料理のタラバ蟹、道産牛ヒレスステーキ、うに・いくら丼には参加者全員、大大感激で最高のおもてなしでした！



▶高進機工(株) 代表取締役 寺澤憲司 氏

実行委員長でもある敬禮さんが発表する第4分科会に参加しました。

現在は海鮮どんぶり店を運営していますが創業時はネット販売等を手掛けていて何事も順当でどんどん店舗を増やし有頂天になっていました。店舗を増やすたびに借金がどんどん増えていきましたが収益も良好な為気にしておらず、やがて債務超過・会社崩壊の危機が訪れます。

そこで同友会に入会し「人を生かす経営」こそ、企業存続の鍵と気づき、労働環境の改善に着手、さらに社員が真の豊かさを実感するには若い世代にも届く共育の実践が必要と考え、分かりやすい教育指針を基に働きがいのある社風を創り、全社員一丸となって経営に参加し、現在は社員のみでも経営出来る様な素晴らしい会社になったとの事でした。

まさに社員共育の鏡のような報告でした。この発表を糧として社員共育委員会の活動をさらに盛んにしていきたいと思えます。

▶青森県中小企業家同友会 主任 松田康太郎

全国から約 400 名の経営者が集結し、青森からは 5 名の参加となりました。

1 日目の分科会では、各委員会活動に社員さんを参加させる事で、自主性を持たせる事の大切さや、社員さんだけの参加ではなく、経営者と一緒に参加する事でその活動が会社の成長につながると学びました。

2 日目はパネルディスカッション形式での開催でした。経営者はいかに厳しくても維持継続発展し続ける事の難しさや、経営者が永遠に経営し続ける事ができない事、そのためにどのようにバトンを渡すのかという事。人材を育てていくために、会社が地域にどう必要とされ、指針書をワクワクして続けられるのか等、いろいろな問いかけがありました。

共同求人も社員共育も一人では出来ません。研修会内容も「経営者の押し付け」にならないよう、社員さんの意見も取り入れる事が大事だと今回の全国行事で学びました。



けて、または職員が方向先を見失った時のためにとの想いからです。ホームページの画像は岩木山をバックに様々なコミュニティがありました。地域の全ての人を楽しそうな幸せそうな生活を送っている風景があり、ポジティブでワクワクする地域の未来像が描かれています。それが全てを物語っているように、ワクワクする 10 年後を実現するために自社の強みを生かし、その積み重ねが風景を作っていくと感じました。

そして「夢を持つことが大切」と渋沢栄一の夢七訓を例に出し「幸福を求める者に夢なかるべからず」と語られました。福祉に携わる者として、利用者様の 10 年後の幸せ、その後の幸せを求めるために自社の強みはなんだろうかと改めて考えさせられるワクワクする講演でした。

記/ (社福) 恵徳会 けやき寮 園長 鈴木 久美子 氏



↓ 6/26 八戸支部例会 参加者 21 名



↑ 6/27 青森支部例会 参加者 40 名

女性部会6月全県例会

経営を面白くする 10 年ビジョン
～ やりたいことを見える化する ～



◆報告者◆
(株) マルジン・サンアップル
代表取締役社長 葛西 万博 氏

(津軽支部)
(2025/6/19 参加 17 名)

★★★ 感想文 ★★★

『幸福を求める者に夢なかるべからず』

なぜ 10 年ビジョンを作成したか。目先の改善だけでは限界があり、社内全員が同じ方向を見るためには羅針盤が必要です。その目的を掲げ、誰にでもわかる見える化としてホームページを作成したといっています。それは全国世界へ向けて、また消費者に向

津軽支部6月例会

限界突破の弱小経営者が



「共に生きる道」

◆報告者◆

(一社)日々木の森(上十三支部)

代表理事 立崎 文江 氏

(2025/6/20 参加 25名)

☆☆☆ 感想文 ☆☆☆

障がいがある、あってもなくても 「ディーセントワーク」

「ほとんどの職員が辞めない」従業員の定着率が90%近いということに衝撃を受けました。簡単に離職していくこのご時世に、なぜ？

今回の報告者は、今年10月に青森で開催される「障害者問題全国交流会」実行委員長でもある、立崎文江氏。彼女の職業人生は恵まれたものではなく、トリプルワークが必要なほどの生きるだけで精一杯のシングルマザーでした。そのうちのひとつの職で縁があり、古民家カフェをすることになります。半年で閉店。その後、福祉事業経営者から依頼され、古民家カフェで障害福祉サービス事業所を始めますが、事業撤退を通告されます。心が折れそうな現状の中、障がいのある仲間や、自身の腕の中にある小さな命のためにと一念発起し代表として腹を括ります。そこから今まで事業を発展させてきた物語は、まるでドラマ。立崎文江氏の想いとこれまでの経験に基づき「人を生かす経営」を進めています。

また、中小企業における労使関係の見解（労使見解）をバイブルにディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を粛々と実践していることが従業員の高定着率の理由でした。

自身も自社において実践していきたいと思います。しかしながら言うは易く行うは難し。精進したいものです。

記/ (福)阿闍羅会 ワークショップ大鱈 課長
田中 大生 氏



下北支部6月例会

下北の海の宝、山の宝

～県内無二の農業と水産業の地、下北～

◆報告者◆

(地独)青森県産業技術センター

下北ブランド研究所 所長 小菅 孝一 氏

(2025/6/25)

☆☆☆ 感想文 ☆☆☆

『アイデアを実現する強い味方』

下北ブランド研究所・所長の小菅孝一氏の講演を聞き、地域の資源を活かしたアイデアを形にする支援を行う、心強い存在だと感じました。

年間30件程の開発に対して商品化に至るのは約10件とのことで、開発されても知ってもらえる機会がなければ、商品化は難しいという現実も改めて痛感しました。日常で目にしていた商品が、実はこの機関のサポートを受けて生まれたことを知り、驚きとともに関心が深まりました。こうした支援機関の存在がもっと知られ、地域の想いや魅力が形になっていくことを願います。

そして、アイデアを一人で抱え込まず、地域の力を借り前に進む選択肢があることを、多くの人に知っていただきたいと思いました。

記/ (株)青森みちのく銀行 福村 森世 氏



↓ 7/9 下北支部例会



定時総会 In 神奈川 --- 参加感想文 ---

▶鈴木建設工業(株) 代表取締役社長

花田仁 氏

梅雨明け間近な横浜市は想像通りの暑さ。会場「パシフィコ横浜」では神奈川同友会の熱気も相まって気持ちが昂ります。

私の選んだ第12分科会は、中同協顧問で2019年の新春例会in三沢で講演を頂いた(株)宮崎本店会長の宮崎由至氏です。

報告の内容としては、昭和30年から今まで日本酒製造の許可が下りていないことに起因する日本酒の衰退、また自社での社員との関わり合いに同友会の人を生かす経営(労使見解)を活用するなど、解りやすい報告でした。当日は久しぶりの全国大会に合わせグループ長を仰せつかり緊張の一日でしたが10人グループの数名の方から「障全交には行くから」と嬉しい言葉をかけられ、立崎・田中両実行委員長、そして参加促進・PRチームをはじめとする皆さんの招致活動に敬意を表したいと思います。「障全交 in 青森」が大いなる盛り上がりを予感する総会でした。



▶プロジェクトおおわに事業協同組合

常務理事 渋谷敏志 氏

中同協定時総会に初参加。

2日間集中して学びを深め、たくさんの気づきをいただいたためか、正直疲れました。

分科会では、社員と共に育つためにグループ討論を社内でも取り入れ、活用し、社員がワクワクするビジョンづくりや理念の共有など、相手を否定せず、いろいろな意見を本音で話せる仕組みづくりを学びました。

懇親会ではチーム青森同友会総勢18名で10月の障全交 in 青森のPRを行い、制限時間をオーバーするほど両実行委員長の熱い想いを会場の皆様に伝えることができました！

2日目の全体会は、発表から50年を迎えた「労使見解」を改めて学び直し、経営者の責任と経営姿勢とは何か。同友会での学びを自社でどの様に実践し、どのように変わったかをご報告いただきました。

「同友会運動をやっているつもり、知っているつもりではないか」とお話しされたときにドキッとさせられ、自分がしっかり理解して同友会運動と会社経営をしていない事に気づかされました。

この2日間での学びと気づきを実践できるよう経営姿勢を確立させ、社員との対話を大事にして信頼される経営者となって組織経営ができるよう、自分自身も社内環境も変えたいです。

社員が本当に幸せを感じる企業づくりを目指して、引き続き同友会で学び続けたいと改めて感じた全国総会でした。

7月理事会報告 於:事務局 2025.7.1(火)

1)年度方針の確認

- 青森同友会2025年度重点活動方針
- 青森同友会3カ年ビジョン(2023~2025)

2)報告事項

- 青森同友会の各支部・全県事業と全国行事について

①各支部の動き

②全県の動き

③全国・ブロック行事の動き(2025年度)

④中同協幹事会(2023.10.26)より

- 経営指針を創る会について
- 3ヶ月先行管理の進捗状況について

3)審議・確認事項

- 中同協第57回定時総会in神奈川について
- 第23回障害者問題全国交流会 in 青森に向けて
- 各種活動の発信について(組織委員会)

●2025年度会勢目標について

●各支部、委員会からの報告

会員数 411名 / 入会 8社 退会 3社

【次回開催日】2025年8月5日(火) 13:30~/事務局